



平成26年12月 No. 3 文責 あすなろ作成委員

大きな行事の多かった2学期が終わろうとしています。12月に入り寒さも増してきたように思います。

体調管理には十分に気をつけて、今年度の締めくくりに向けて頑張りましょう♪

あすなろ3号は、研修報告特集号となっています。原稿依頼へのご協力ありがとうございます。

第57回 幡多地区公立学校事務職員研修会について

(日程) 平成27年2月5日(木) 13:00~16:50
(会場) 四万十市立中央公民館

※土佐清水市から変更になりました。
お間違えのないようお気を付けください。

研修内容については、

- ◎研究部より研究発表
- ◎国立教育政策所からのアンケート回答⇒内容についてグループ討議
- ◎共同実施の推進についてグループ討議

を予定しています。

詳細については12月19日(金)の研究部会で決定します。

決まり次第要項が届きます。

お忙しいとは思いますが、たくさんの方の参加をお待ちしております。

なかまのうごき



もう少しで…成人式!!!

清水中学校
八束小学校



ご成人おめでとうございます。



四国大会の感想



黒潮町立入野小学校 主幹

働き始めて27年、、、。高知以外で開催される四国大会に初めて参加しました。

きっと皆さんの話している内容が理解できないに違いないと思って、これまで敷居が高かったのですが、いつまでもそんなことも言ってもらえない…（不安）

まずは文部科学省行政説明にて「教育再生実行会議」趣旨・提言内容のポイントを確認。

なるほど、国の方策が自分の学校に実はダイレクトに繋がっているのだと知りました。

そして分科会 香川県報告

「学校力を高める学校事務への挑戦～JOINT（つなぐ）学校事務～」

学校力や新しい事務職員像、職務内容や研修体系の確立についての報告と今後の展望でした。なんと！みなさんが言われてる言葉が、わかる！（もちろん私なりにですが）社会状況に応じて、求められる学校像・事務職員像を模索しているのはどの県でも同じなのだ。新しいことに取り組むときはやはり、必要なのは共通理解で、具体的に定義や達成するめあてを様々な表によって明確にしていることが参考になりました。高知が研究している内容にもつながる部分が多く、今までの研修を続けてきたから、私でもこの発表を聞いて理解することができたのだと、研修をさせてくれている諸先輩方に感謝しました。

そして、記念講演「発想力とマーケティング」四国学院大学 教授。

この講演は私にとってとても興味深かったので、ちょっと内容をご紹介します。

第一声 僕は「うどんのひと」と呼ばれていま
タウン情報香川初代編集長 うどんブームの仕
「僕は情報発信屋」情報発信するのはなぜか？
→人を動かすため



す。
掛け人



○目的を達成するための情報発信 どうしてほし

のか（目的）につながる発信方法例：新しい店の紹介記事「白を基調にした明るい店内」

これを読んでその店に行きたいと思うか？

友達におすすめの新しい店を教える時、白を基調にした明るい店内と言うか？

文を書く目的「その店に行ってほしい」を達成するための文を考えるようにな

ると選ぶ言葉が変わってくる。言葉に「魂」が入ってくる。

○目的の具体化が必要スローガンの目的は何をしてもいい＝何をしたらいいか曖昧
成果が上がらないし、成果を測れない

〔例〕商店街の活性化

「目的は何ですか？」 「商店街の活性化です」

「どうなったら活性化と言えますか？」 「人がいっぱい来たらいい」

「通行量が倍になったら、みんな素通りでもいいですか？」

「通過するだけでは困る」「では、どうしてもらいたいですか？」 「店の物を買ってほしい」
つまり、「商店街の活性化＝商店街の個々の店舗の売り上げが上がること」

〈事例からの教訓〉 重要目的はできるだけ具体的に
目的と方法の整合性が取れていなければならないマ
ーケティングの順番を理解すべき

①良い商品を作る お客様が欲しいもの・ライバルに勝てるもの

そもそも商店街に売れるもの・買いたいものがない、ことに気づくべき。

従来、やってきたことと言えば、アーケード改修、カラー舗装、イベント開催

⇒ 買いたいものを揃えるという一番大切な戦略がない

②商品を提供する 販路の確保・宣伝・営業

○発想力 発想する

①どこにもないものをゼロから生み出す→天才だけ

②どこかにあるものを持ってくる（外国から、昔から）

③どこにでもあるものを組み替える（組み合わせを変える）

②と③の手法を使えば、凡人でもいくつもの発想をすることができる

○マーケティング

マーケットに働きかけて何かを達成すること

カウンターの向こう側とこちら側

お客さんにどうしてもらいたいか

そうするためには、どうしたらいいのか（戦略）

積み上げていくと、当たる率を上げることができる

それでも時代が変化するから、10割にはならない

○学校事務とマーケティング

「働きかけて対象を動かす」という意味ではマーケティングはどの分野でも、個人・家庭・社会どの段階でも活用できる考え方。

学校事務の対象（お客さん）はだれなのか

その人にどうしてもらいたいか、明確で具体的な目標がいるのではないか

異分野の講師のお話を伺うと、いつも刺激を受ける。一見マーケティングと関係の浅い分野である学校事務だが、このような手法、考え方的一端を紹介していただいたことで、いろいろなアプローチの仕方を発想することができると感じた。常に受け取る側を意識した情報発信でないと効果がないという点は特に合点がいった。

研修終了後は、開会式で高松市長のおすすめに従い、「高松が誇る美味」をたっぷり満喫して頭もお腹もいっぱい帰ってきました。道中、同期採用の3人組が熱く毎日の仕事について語り合ったのも、とても充実した時間となりました。県外研修、行って良かったです！



参

平成 26 年度公立小・中学校事務職員研修（ステージⅡ充実）に加して

四万十市立利岡小学校 主幹

公立小・中学校事務職員研修（ステージⅡ充実）を受けてきました。受講者は主査5名、主幹4名の合計9名でした。8月4日・8月5日に予定されていたのですが、台風12号の影響で、8月4日の研修が8月28日に延期になりました。台風や豪雨で被害に遭われたみなさまにお見舞い申し上げます。

第1日目となった8月5日は、昨年度筑波での研修を受けた土佐町中学校の主任と室戸中学校の主幹より「実践的な取組を目指して」の研修でした。おもに学校組織マネジメントを通して、「仕事の見える化」について、自分の仕事を見つめなおす内容の研修で、研修の間、各自がアクションリストに発見したこと・実践することをメモしながら行いました。

自分の一日の勤務日程を記入する演習では、まず一定時間にどれくらいの量をこなすか決める。次に自分で決めた目安の時間ごとに進行状況をチェックする。そして遅れがあった場合は、次の期限までにこなすための対策をたてる。意識して「遅い自分」を自覚することが、仕事のスピードアップにつながるというお話や、相手の返答を待つ間に自分の仕事ができるので、質問する時間帯を考える、昼休みには一日の仕事を再確認するなど、仕事に対して合理的に取り組むために必要な三つの視点、①目的を見据える②中身を知る③順序を考える。を意識すると良いということを確認しました。

また、改善に向けての現状チェックリストで、時間にかかわるムダ・定型的な仕事にかかわるムダ・書類にかかわるムダ・引き継ぎ手順書にかかわるムダ・コミュニケーションのムダ（指示・連絡・会議・ミーティング）についてチェックを行い自分の課題について洗い出しました。私の課題は、「先をみて行動する（急を要することへの対応を常に考えて）・優先順位（相手があるものを先に）・校内システムを定着させる・引き継ぎに必要な手引きがない（あるものを活用する：情報編集力）…とまあリスト項目がたくさんありました。これらの演習を基に、グループで情報交流を行いました。自分用に日誌を作成している方や、締め切りボードをつくって自分にも先生方にもわかるようにしているなど、各自が色々な取組をしていることが分かり勉強になりました。『発信なくして受信なし』ということで取組を発信できるよう、不満を改善に繋げていけるよう実践しなければと思いました。

8月28日は、高知県教育センターの方から「キャリアの振り返り」「メンター・メンティー」「学校組織マネジメント概論」「課題解決」と盛りだくさんの内容でした。

「キャリアの振り返り」では、自分の歩みを、内面と周り（外部関係）の2点から振り返りました。自分のライフステージとライフサイクルを調和させるためのポイントを確認し、自分自身の持ち味、仕事に対する動機、仕事に対する価値観、理想の事務職員像とは何かを、グループで話し合いました。理想の事務職員像ではグループ内で出た意見が、「何か質問されてもあわてて対処できる」「自分に余裕がある」「自分のことだけでなく周りに目を配れる」など、それぞれあるなと思いました。

「学校組織マネジメント概論」では、なぜマネジメントが必要なのか…、経験やスキル・地域の実態に合わせることで、学校マネジメントがうまく機能していると充実するということなど、簡単に講義を受けて課題解決の分析方法（ロジックツリー）を学びました。ロジックツリーを作成してグループで発表しました。

モレがなくダブリがない状態に、更に具体性のレベルを一致させ、さらに上位層と下位層に因果関係があるように作成するのが本当に難しかったです。



今回の研修で初めてお話した方もいましたが、考え方や実践の交流ができて充実した研修会でした。

平成 26 年度公立小・中学校事務職員研修（ステージⅢ発展）に参加して 四万十市立西土佐小学校 主幹

6月23日、24日に開催された公立小・中学校事務職員研修（ステージⅢ発展）を受講しました。

採用20年目の同期が久しぶりに集まり、研修や情報交換（夜の懇親会も）等2日間の研修を和やかに終える事ができました。

1日目の『学校マネジメントと事務職員』では講師の徳島県東みよし町立三好中学校 主査兼事務長よりマネジメントについての講習を受けました。WBM（ホワイトボードミーティング）やワールドカフェ形式などを実際に体験し、会議を楽しく行うことや対話のきっかけなどコミュニケーションの大切さを学びました。キャリアを磨くでは、仕事のための12の基礎力を能力の種類と開発適齢期を参考にしながら、今自分に備わっておくべき基礎力を改めて考えることができました。今後は30代40代で開発するべき能力を意識しながら、日々の職務に取り組んでいきたいと思いました。

2日目の『人材育成のためのリーダーシップ』では事務職員として発揮できるリーダーシップについてワークシートを用い、グループ討議を交えながら研修を行いました。1日目の研修でも話がありましたが、事務職員のリーダーシップ（気配り、根回し、決断力、実行力、高いアンテナとセンサー）を心がけて行きたいと思います。『課題解決』ではロジックツリーの作成を通して、主幹に求められる能力目標の、求められる水準に対する具体的な取り組みを考える事ができました。ロジックツリーを用いた課題解決方法は初めて聞くことで、かなり難しくすんなりとはいきませんでした。自分自身のこれからの取組について考える時間をもつことができ、普段ではなかなか取れない良い機会となりました。

『メンタルヘルス』では相手の話を聞くことの大切さ、セルフケアで早期発見しこころのサインに気づくこと、当たり前は人それぞれ違うこと等改めて気づくことができました。

2日間の研修を通して、どの研修でもコミュニケーションの大切さについて話がありました。より良い職場になるように心がけ、笑いのある職員室、子どもたちや教職員にとって明るい楽しい学校をめざしていきたいと思います。

仕事のための12の基礎力

名称	能力の種類 (対)	開発年齢期					MEMO
		10代	20代	30代	40代	50代 60代	
1 反応力	人	○	○				コミュニケーションの基本 情報収集力につながる
2 愛嬌力	人	○	○				笑顔で人を引きつける力 メンバーを得られる
3 楽天力	自己	○	○	○	○	○	ストレス解消法を持ちポジティブシンキング できる 学習視点でものを見る
4 目的発見力	課題	○	○	○	○		問題解決を目標とする 夢はあるか
5 継続学習力	自己	○	○				学習する習慣
6 文脈理解力	人	○	○	○			背景、文脈の異なる人の中で意見調整 する力
7 専門構築力	課題			○	○		自分の強みを計画的につくりあげる力 何を自分の専門とするか
8 人脈開拓力	人		○	○	○		仲間や情報源となる人を開拓し、関係を 維持する力
9 委任力	人		○	○			人に仕事を頼み任せれる力 「悪魔の声」に負けない
10 相談力	人			○	○	○	相談される力、カウンセリング力
11 教授力	人			○	○	○	自分の知識、技術を人に教える力 しゃべりすぎ禁物!
12 仲介調整力	総合			○	○	○	コーディネート力 物事を調整する力(仲介推進力)

「仕事のための12の基礎力」 大久保幸夫 日経BPより

話を聴くポイント

- * じっくり聴く(時間がない場合は「今は長く時間がとれないからあと1時間後に」など)
- * 自分の話す量は少なめに
- * 質問攻めにしない
- * 伝え返す(相手の言っている言葉を受け止めてそのまま返す)
- * オウム返しとはちがいます
- * 特に、相手の気持ち(感情)を伝え返す
- * 評価をしない

質問の技があります

- ~ということ?
- どのような感じ?
- もう少し詳しく教えてください
- 例えば?
- 具体的にどんな感じ?
- どのようなイメージ?
- エピソードを教えてください
- ほかに?
- うんうん
- なるほど、なるほど
- わかる、わかる
- そうなんだあ
- へえ
- だよねえ
- それで、それで
- そっかあ

避難所運営ゲーム

IN 四万十市HUG

もし、あなたが避難所の運営をしなければならない立場になったとき、最初の段階で殺到する人々や出来事にどう対応すれば良いのでしょうか。

避難所 HUG は、避難所運営を皆で考えるためのひとつのアプローチとして静岡県が開発したものです。避難者の年齢や性別、国籍やそれぞれが抱える事情が書かれたカードを、避難所の体育館や教室に見立てた平面図にどれだけ適切に配置できるか、また避難所で起こる様々な出来事にどう対応していくかを模擬体験するゲームです。

プレイヤーは、このゲームを通して災害時要援護者への配慮をしながら部屋割りを考え、また炊き出し場や仮設トイレの配置などの生活空間の確保、視察や取材対応といった出来事に対して、思いのままに意見を出しあったり、話し合ったりしながらゲーム感覚で避難所の運営を学ぶことができます。

HUG は、H (hinanzyo 避難所)、U (unei 運営)、G (game ゲーム) の頭文字を取ったもので、英語で「抱きしめる」という意味です。避難者を優しく受け入れる避難所のイメージと重ね合わせて名付けられました。

使用禁止のトイレが山盛りとどうする？



毛布が200枚来ると、荷降ろし場はこのあたりにする？

避難者のペットは何処におってもらう？



ちっさい子を連れた人は体育館じゃ泣いておりぬくだろうか？

11月26日に市教研事務職部会では、四万十市地震防災課の方を講師に招き、四万十市地域防災計画を基に災害時の事務職員の役割や学校としての役割等を説明して頂き、その後「避難所運営ゲーム」を通じ、避難所の運営を行う上でどのような事が発生し、どのように対処すべきなのか、5グループに分かれて研修を行いました。詳しくは今年度の研究収録あすなろで報告させていただきます。